Dr.わーだーの養生記

vol.59
「高血圧と脳出血と認知症」

心血医院（ここちいいん）　院長 和田（わだ） 豊郁（とよふみ）

国民の血圧の調査が始まったのは1956年。当時の死因の第一位は脳出血。多くは血圧が高かったので死を免れた人は再発予防のために降圧剤を飲みましょう、ということになり『血圧の薬は飲み始めたら一生のまないといけない』という都市伝説が生まれました。調査が始まった頃の年齢10歳ごとの平均血圧はおよそ『年齢+100』で、これを年齢標準と理解した人が多く、脳出血も歳のせいと考えた人が多かったものです。親族に高血圧や脳出血の人がいると発症しやすい家族性があることも分かり、減塩指導や良い降圧薬の登場で現在では高齢者でも平均血圧は140mmHg台となりました。最近では発症も救命率も上がりましたが皆さん高血圧の治療をしっかりしておけば良かったと言われます。出血しなくても高血圧は放置すると必ずまだら認知症になり、治療に応じず、わがままで社会性がなくなり、自分も人も言うことを聞いてくれない、怒りに満ちた老後を覚悟しなければなりません。そうなる前に！

■ 心血医院（ここちいいん）
久留米市日吉町14-68／TEL.0942-65-5129
診療時間：〈月～土〉9:00～12:00
〈月火・木金〉19:00～22:00
休診日：日祝・盆・年末年始